

## 10月定例記者会見の概要

1 日時 令和3年10月4日（月）9時30分～10時30分

2 場所 本庁舎3階 第一会議室

### 3 出席者 <報道機関>

- ① 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ⑤ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑥ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑦ 共同通信社 福島支局（南相馬記者クラブ準会員）

計 7 社

### < 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・林副市長・常木副市長・教育長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部長・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

#### ◆最近までの出来事

それでは、前回8月25日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてです。

まず、ワクチン接種についてです。

10月4日時点で、ワクチン接種を完了した方の人数は5万377人で、接種回数は延べ10万1,297回となりました。

市の集団接種は8月28日で終了となりましたが、引き続き、希望者への接種を進めています。9月24日、25日、26日には、満12歳の小学生218人のうち、接種を希望した152人に接種を行いました。

また、8月27日から9月27日まで、住所地外接種の事前受付を実施し、413人の申請を受け付けました。申請された方には、順次接種日時を通知し、すでに

約250人の方に接種を行っています。

加えて、集団接種終了後に、病気や入院等で接種ができなかった方や接種を検討していた方などのために、原町保健センターでフォローアップ接種を継続しています。

接種の予約はワクチン接種日時変更サイトまたはコールセンターで受け付けています。

今後も、一人でも多くの接種を目指して、取り組んでまいります。

また、ワクチン接種業務などの支援及び本市職員の研修を目的として、交流自治体である杉並区へ、本市職員を派遣いたします。

10月4日から12月24日まで、延べ11名の職員を派遣し、ワクチン接種業務や自宅療養者の支援業務に従事する予定です。

杉並区からは、東日本大震災以降、本市へ多大なご支援をいただいております。現在も5名の職員を派遣していただいております。

加えて、杉並区は福島県が担う保健所業務も行っています。

杉並区への今までの支援に対するご恩返しと、本市職員の今後のコロナ対策に備えた研修になることを期待しています。

次に、市内の感染状況についてです。

市内で確認された9月の感染者数は12名となりました。9月上旬に感染者が続いて確認されたものの、その後は単発的な感染に留まり、8月の感染者数33名と比較すると大幅に減少しています。

これは市民の皆様が不要不急の外出自粛やマスクの着用、手指の消毒などの感染対策にご協力いただいているおかげです。改めて感謝申し上げます。

一方、全国的には2回目のワクチン接種後2週間が経過した後の感染、いわゆるブレークスルー感染が確認されており、本市でも複数の感染例が確認されています。

ワクチン接種の対象とならない子ども達を守るため、引き続き基本的な感染対策の徹底とワクチンの積極的な接種をお願いいたします。

次に、市議会定例会についてです。

9月1日に開会した第5回南相馬市議会定例会は、9月16日に閉会しました。この議会では、「デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律等の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定について」をはじめ、議案34件、報告2件を提出し、21件が可決されました。令和2年度決算認定議案13件は決算審査特別委員会で継続審査となっています。

次に、民間テレビ局による南相馬市特集についてです。

9月20日に福島中央テレビの情報番組「ゴジてれChu!」で、南相馬市が特集されました。番組では果物やお菓子、パンなどの特産品11品目、セデッテかしまなどの施設や店舗13か所が紹介されました。また、震災以降、様々な地域から本市に移住した方々の取り組みも紹介されました。

第三者から見る南相馬を通して、改めて、私も市の魅力を知る機会となりました。

次に、ふくしま次世代航空戦略推進協議会についてです。

9月20日、市内の福島ロボットテストフィールドや産業創造センターなどに入居する民間企業4社による「ふくしま次世代航空戦略推進協議会」が設立されました。協議会では、次世代航空機として注目されている「空飛ぶ車」やドローンの研究開発について、地域での人材育成、地域企業との連携、規制緩和・特区の推進などに取り組むとのことでした。

本市が次世代航空産業の一大拠点となることを期待し、市として、新たな産業がこの地域に根付くように資金調達や実証場所の提供など、伴走支援に力を入れて取り組んでまいります。

次に、「火の祭」についてです。

9月25日、小高区野馬追執行委員会の主催による「火の祭」が、感染対策を実施したうえで、2年ぶりに開催されました。

小高小学校の児童2人が代表して点火した100灯のかがり火が灯る中、県内最大級の2尺玉など4,500発の花火が打ち上げられました。

次に、「サイクリングロード」についてです。

10月3日に真野川親水サイクリングロードが開通しました。市民一体感醸成事業の一環として、セデッテかしまから、真野川河川敷沿いを活用して、牛島海浜公園まで約11キロメートルにわたるルートを整備しました。当日開催された開通式では、鹿島小学校の児童の皆さんによる走り初めが行われました。

必ずや、本市の健康づくりに寄与するものと期待し、本施設を活用して参りたいと考えております。

次に、旧避難指示区域内市民説明会についてです。

10月3日に浮舟文化会館にて「令和3年度旧避難指示区域内市民説明会」を開催し、95名の方々にご参加いただきました。

市より旧避難指示区域内の状況について説明したほか、環境省より本市における除染、中間貯蔵及び廃棄物の進捗状況について説明いただきました。

続いて、今後の主な話題について、触れたいと思います

はじめに、市内飲食店の経済対策についてです。

福島県非常事態宣言の解除に伴い、本日10月4日より「のまん食事券」の利用を再開いたします。

この食事券は、市内の参加店舗において、一枚1,000円で購入し、1,500円分の支払いにご利用いただけます。

利用再開にあたり、参加店舗については、県が実施する「ふくしま感染防止対策認定店」制度の認定店であることを条件とさせていただきました。

また、今回、市役所職員においても、「飲食は、感染防止対策を徹底し、少人数、短時間、いつも一緒にいる人と」などの福島県の基本ルールを守った上で、飲食店支援に取り組むよう、10月1日付でお願いしたところであります。

市民の皆様も食事券を利用して、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、売り上げが落ち込んでいる市内飲食店を応援していただきますようお願い申し上げます。

次に「ワールドロボットサミット2020福島大会」についてです。

10月8日から10日の3日間、福島ロボットテストフィールドにおいて、経済産業省及びNEDOの主催による、ワールドロボットサミット2020福島大会が開催されます。

本市で開催される福島大会では、インフラ・災害対応で活躍するロボットの競技会が行われます。競技会には、南相馬ロボット産業協議会の参画企業11社が、設計から製造までの工程を全て市内で行い完成させたロボット「MISORA(ミソラ)」が出場します。「MISORA」は、各社の優れた技術が結集したロボットです。

なお当日は同じ会場で、県主催イベント「ろぼいち」も行われます。

イベントの観覧には事前申し込みが必要です。現在、ワールドロボットサミット公式ホームページで、申し込みを受け付けていますので、ぜひお申込みください。競技会当日は、インターネット中継が行われる予定です。

なお、10月末まで、市役所本庁舎の市民課ホールに、ワールドロボットサミットの特製缶バッチなどが当たるカプセルトイが設置されていますので、ぜひご利用ください。

次に、協定の締結についてです。

10月11日、市内の橋梁維持管理のDX化に向けた実証実験について、株式会社デンソー、南相馬市測量設計業協同組合、南相馬市の3者で協定を締結します。本協定により、3者は連携して橋梁維持管理業務のデジタル化などに取り組む予定です。

協定内容の詳細につきましては、現在調整を進めていますので、後日、情報提供させていただきます。

次に、秋の競馬大会についてです。

10月17日に第76回相馬野馬追振興 秋季競馬大会を雲雀が原祭場地で開催いたします。

出場頭数は27頭で、全9レースが行われる予定です。

新型コロナウイルス感染対策のため、ポニー乗馬体験や野馬原マルシェなどのふれあいイベントは行わない予定です。

次に、新米に関する話題です。

10月22日に「新米出発式・新米発表会」を開催いたします。JAふくしま未来そうま地区本部において新米出発式を開催するほか、出発式終了後、かしま交流センターで「南相馬市産コシヒカリ」の新パッケージを記者の皆様にご発表する予定です。

また、本市出身の学生を対象にモニターを依頼する「学生モニター」に登録いただいた皆様には、今年度も南相馬市産の新米を送らせていただきます。まだ募集していますので、この機会にぜひご登録ください。

次に、「植樹祭」についてです。

10月24日に「第9回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」を原町区金沢地内で開催します。

新型コロナウイルス感染対策として、昨年同様、南相馬市民を中心に開催します。200名で約2,500本の苗木を植樹する予定です。

当日は、鎮守の森プロジェクトの副理事長として植樹祭の開催などにご尽力いただき、今年7月に亡くなられた宮脇昭先生を追悼し、黙とうを捧げます。

参加の申し込みは市ホームページなどで受け付けております、ぜひご参加ください。

次に、「秋のクリーンデー」についてです。

10月24日に、「秋のクリーンデー」を開催します。

新型コロナウイルスの影響で春のクリーンデーを中止したため、1年ぶりの開催です。市民の皆様はもとより、企業の皆様も、清潔で快適な住みよいまちづくりのため、ぜひこの機会に、地域の清掃活動にご参加ください。

次に、「市表彰式」についてです。

11月3日に、ホテルラフィーナにおいて、令和3年度南相馬市表彰式を開催いたします。今年度は、自治、教育文化、産業、経済など各分野において、功労のあった35名の方々と1団体が受賞となります。

次に、新型コロナウイルス感染防止対策のため、中止及び延期となるイベントについてです。

まず、10月、11月に予定しておりました各地区敬老会は、中止とさせていただきます。

次に、11月3日に予定しておりました「復旧・復興支援感謝の集い」は延期いたします。ご支援いただいた方々には、感謝状を郵送させていただく予定です。

9月30日で19都道府県に出されている緊急事態宣言は解除されたものの、ご支援をいただいた多くの方々を市内にお呼びし、関係する市民の皆様との交流を通じて、感謝の気持ちをお伝えすることは困難と判断しました。何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

#### 【各部からの資料提供】

##### ◆総務部

- ・令和3年度南相馬市表彰について

##### ◆市民生活部

- ・令和3年度秋のクリーンデーについて

##### ◆健康福祉部

- ・令和3年度敬老会中止のお知らせ

##### ◆経済部

- ・「のまたん食事券」の利用再開について
- ・第75回相馬野馬追復興秋季競馬大会
- ・令和3年度新米出発式及び新米発表会の開催について
- ・第9回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭の開催について

#### 【質疑応答】

質問1：

市はワールドロボットサミット開催に向けて様々な機運醸成に取り組んできましたが、成果と期待を教えてください。また、開催に向けて、機運は高まっていますか。

**回答 1 : 市長**

ワールドロボットサミットでは、インフラ・災害対応で活躍するロボットの競技会が開催されます。この競技会に向けて、市内の事業者の皆さんと県立テクノアカデミー浜、県立小高産業技術高等学校の生徒の皆さんが力を合わせて挑戦することが、大変素晴らしい成果だと思います。競技会という大きな目標に向かって努力した経験が、事業者や生徒の皆さんの将来に活かされることを期待しています。

9月に福島県による非常事態宣言が発令されたことで、開催が危ぶまれましたが、10月1日の宣言解除後、翌2日には月あかりコンサート、3日にはサイクリングロードの開通式を市内で開催するなど、状況が変わりつつあります。これもワクチン接種と市民の皆さまの感染対策のおかげです。市として、ワールドロボットサミットの開催に向けて、精一杯、機運の醸成に努めたいと思います。

**質問 2 :**

新内閣に期待することを教えてください。

**回答 2 : 市長**

福島の復興はまだ道半ばで、厳しい問題だけが残っている状況です。新しい復興大臣は兼務と伺っており、大変だと思いますが、一日も早く現地に来てもらって現状を知っていただきたいです。復興に向けた切れ目のない効果的な政策を実施いただけるように期待しています。

**質問 3 :**

復興は道半ばというご認識ですが、南相馬市が抱える最大の課題について教えてください。また、その課題について、国の政策に期待することを教えてください。

**回答 3 : 市長**

震災から10年が経過した中で、若者が激減した結果、出生数も少なくなっていることが最大の課題です。全国的に同様の傾向ではありますが、本市では急激に少子高齢化が進行しているため、将来、社会が成り立たなくなることを懸念しています。

そのうえで、国には、移住定住策や国際教育研究拠点の設置などの政策を一日でも早く実現していただくことを期待しています。復興大臣をはじめとする関係大臣には復興から10年が経過した本市の現在の姿ご覧いただくと共に、現場の声を聴いて、施策の重要性を知っていただきたいです。

**質問 4 :**

のまん食事券について、発行枚数や参加店舗数について教えてください。

**回答 4 : 経済部長**

食事券は7万5,000枚を準備しております。

店舗数については、当初は116点から参加要望がありました。しかし、利用再開にあたり、県が実施する「ふくしま感染防止対策認定店」制度の認定店であるこ

とを条件としました。そのため、利用可能な参加店舗は116店舗中68店で、最終段階の調整をしている店舗が38店、手続を進めている店舗が10店舗となっております。

以上